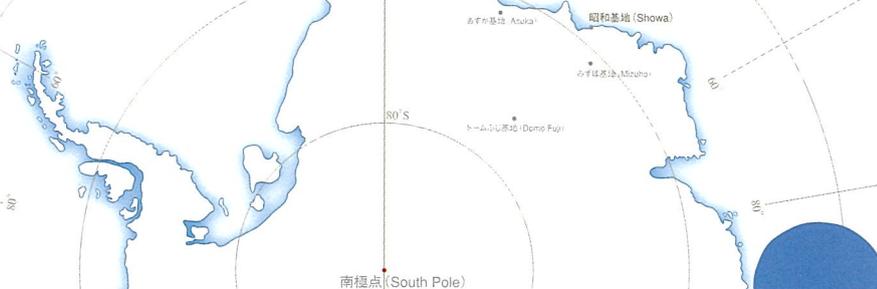


# 第34回企画展



# 46億年の タイムカプセル

[南極大陸から未来がみえる]

Antarctica -With Silent Message for the Future in the 4.6 billion-year-old Time Capsule-

■開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日 毎週月曜日

（ただし、7月18日、9月19日は開館し、翌日が休館となります。）

■入館料 大人 720円（580円）

高・大学生 440円（300円）

小・中学生 140円（70円）

\*（ ）内は20名以上の団体料金です。

\*未就学児、昭和13年4月1日以前にお生まれの方、障害者手帳をご持参の方は入館無料です。

\*この料金には、本館内常設展・野外施設入場料が含まれています。

\*毎週土曜日は、小・中・高校生は入館無料です。

（但し、夏休み期間を除きます。）

■主催：ミュージアムパーク茨城県自然博物館

■後援：朝日新聞社

ミュージアムパーク茨城県自然博物館友会の会

■協力：大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

国立極地研究所

■協賛：ミサワホーム株式会社

## ■記念イベント

●自然講座「教えて 南極の大自然」

7月31日（日） 午後1時30分～午後3時

講師：東京学芸大学教育学部附属大泉中学校教諭

理学博士 堀内 順治氏（古植物学者：第44次越冬隊員）

●自然講座「南極のはなしを聞いてみよう」

8月21日（日） 午後2時～午後3時30分

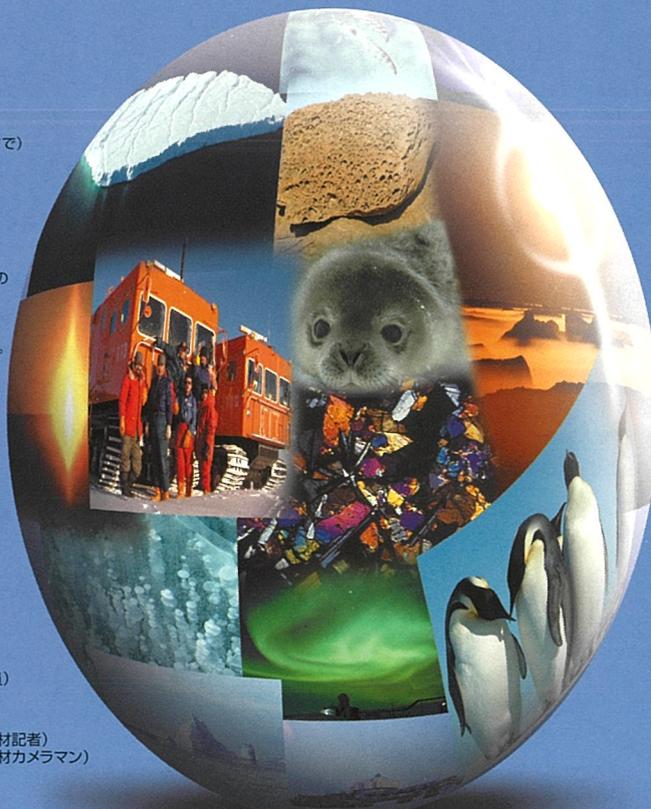
講師：朝日新聞社記者 中山 由美氏（第45次越冬隊同行取材記者）

朝日新聞社記者 武田 剛氏（第45次越冬隊同行取材カメラマン）

特別出演：昭和基地の第46次越冬隊員

（テレビ会議を予定していますが、気象条件などにより、中止する場合があります。）

\*上記イベントは全て事前申込制となっております。



2005年

●7月16日（土）は午後1時から一般公開となります。

7月16日（土）

9月25日（日）

## ■交通案内

車利用の場合

●常磐自動車道谷和原 I.C.から20分

鉄道・バス利用の場合

●JR柏駅で東武野田線乗り換え、愛宕駅下車～茨城急行バス

「岩井車庫行き」乗車～「自然博物館入口」下車、徒歩10分

●つくばエクスプレス（8月24日開業）守谷駅下車～関東鉄

道バス「坂東市方面行き」乗車～「自然博物館前（予定）」下車、

徒歩5分

## 次回企画展のお知らせ

第35回企画展

「動物でも植物でもない生きもの—菌の世界—（仮称）」

2005年10月15日（土）～2006年1月9日（月）



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

〒306-0622 茨城県坂東市大崎700番地

TEL 0297-38-2000（代表）

ホームページアドレス <http://www.nat.pref.ibaraki.jp/>

# 46億年のタイムカプセル

## [南極大陸から未来がみえる]

Antarctica - With Silent Message for the future in the 4.6 billion-year-old Time Capsule

### 南極大陸

は日本の約37倍の面積があり、そのほとんどが氷床で覆われています。氷原では、46億年前の太陽系誕生の情報をもつ南極隕石が多数見つかっています。また、氷の中には、100万年前の空気が閉じこめられています。南極は、まさにタイムカプセルです。そして、南極では地球温暖化の兆候やオゾンホール形成など現在から未来に向けての全地球的な環境変化をとらえることができる場所として、さまざまな観測が行われています。

今回の企画展では、南極の知られざる素顔と南極観測の最前線について紹介し、南極からみえる地球環境についてみなさんと考えてみたいと思います。



(提供:堀内順治)



アザラシの赤ちゃん

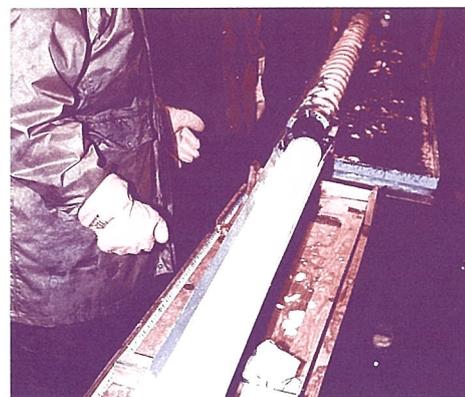
(提供:堀内順治)

現在、南極の自然や資源は南極条約により守られ、そこに暮らすアザラシやペンギンたちは人を恐れることを知りません。



南極からゴミを持ち帰る

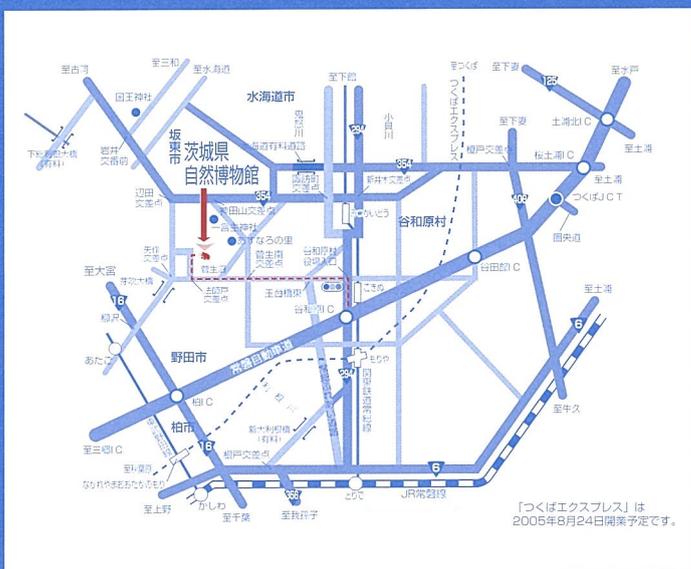
南極観測や観光、漁業などによる人間活動が増えるにつれて南極の自然への影響が表面化してきました。



氷床コアの掘削

(提供:国立極地研究所)

南極大陸内陸部のドームふじ基地で深さ2,503mまで掘削した氷床コアから32万年前までの気候が解析されています。



#### 交通案内

- 車利用の場合
  - ・常磐自動車道谷和原ICから20分
  - ・古河方面から50分
  - ・下館方面から1時間10分
  - ・土浦方面から1時間
  - ・野田(国道16号)方面から15分
- 鉄道・バス利用の場合
  - ・関東鉄道常総線水海道駅から関東鉄道バス「岩井車庫行き」又は「岩井西高行き」乗車→「辺田三叉路」下車、茨城急行バス「野田市駅行き」に乗り換え→「自然博物館入口」下車→徒歩10分
  - ・東武野田線愛宕駅から茨城急行バス「岩井車庫行き」乗車→「自然博物館入口」下車→徒歩10分
  - ・東京駅八重洲南口から高速バス「岩井行き」乗車→「大利根カントリー入口」下車、茨城急行バス「野田市駅行き」に乗り換え→「自然博物館入口」下車→徒歩10分
  - ・つくばエクスプレス(8月24日開業)守谷駅から関東鉄道バス「坂東市方面行き」乗車→「自然博物館前(予定)」下車→徒歩5分

#### 主な展示物

- ◆聖域に生きる生き物たち  
クジラ骨格標本、アザラシ、ペンギン、魚類、地衣類、蘚苔類
- ◆氷に閉じこめられた地球環境の記録  
南極隕石、ラジオソフデ、人工オーロラ発生装置、氷床掘削機、植物化石、サファイヤルビーを含んだ岩石、爬虫類の模型、昭和基地の一室、隊員の装備
- ◆雪原での調査  
雪上車、南極の氷(タッチング)
- ◆南極からみる地球環境  
インタビュ映像(オゾンホール発見者 忠鉢 繁氏、南極越冬隊員が語る地球環境)

\*ペット及び道具等の持ち込みはご遠慮下さい。